風炉・台天目

天目台に天目をのせた点前。
天目には仕覆をつけず、茶入は和物で盆を敷かない。
（◆本来、尾州有楽流にこのような盆無し茶入に天目・天目台をあわせるという点前はないので、あくまで台天目の練習用の点前。尾州有楽流では通常、台天目は盆にのせた茶入に合わせた「台天目・盆点」の点前でおこなう）

台天目は、大きく場所を移動させる場合は、片手で羽を持ち、もう片手で親指を天目の覆輪にかけ、人差し指・中指・薬指を天目の胴～酸漿にあて小指を羽にかけて持つ。
少し移動させる場合は両手とも羽を持てばよい。

※常の点前と異なる箇所を**太字**にした

※水指前に茶入（右）・台天目（左）を飾り付け
（茶入のみを飾り付け、台天目を運び出し、常の茶碗のように左膝前に置いて茶入を右に寄せて台天目をその左に飾り付けてもよい。最初の飾り次第）

仕組んだ建水（柄杓・蓋置が飾ってあるならば建水のみ）を持ち出し、左膝横に置き、柄杓を左手で取って右手に持ち替え、左手で蓋置をとって右手の柄杓と持ち替え、右手で蓋置を風炉左脇に置き、そこに柄杓を引く。

最初の挨拶。

台天目を持ち（右手で羽の手前の方、左手で覆輪～羽）、居前少し向こうに置く。

左手で茶入を取り、居前に置く。

茶入の仕覆を脱がせ、茶入を右手で居前に置き、仕覆を定所に置く。

帛紗捌き（行）して茶入を清め、水指前に置く。

再度帛紗を捌き、茶杓を清め、茶入に掛ける。

帛紗を左手に持ちながら茶筅の綴じ目を見て茶杓の右の方の定座に置く。

帛紗を左手に持ちながら両手で台天目を少し前に寄せる。

帛紗を右手に取り水指の蓋を軽く拭き帛紗を左手に移す。

茶巾を取り水指の蓋上へ置く。

柄杓を右手で取り、左手の帛紗と持ち替え、帛紗で釜の蓋を閉めて蓋上を清め、釜蓋をあけて蓋置に置く。

帛紗を腰に付ける。

柄杓を右手に持ち替え、湯を少し汲んで天目に入れ、柄杓を釜に掛ける。

天目を両手で取り上げて天目を廻して温め、湯を天目の扱いで（つまり両手で）捨て、再び天目台の上にのせる。

右手で柄杓を取って「二度（2 回)」湯を汲み天目に入れて、柄杓を構えて右手で釜蓋を取って釜蓋を閉める。

柄杓を元のように蓋置に引く。

茶筅を取って天目へ入れ、天目を両手で取り上げ、茶筅を一廻し回して天目内に置き、天目を左膝前、台の左隣に置く。

帛紗を取って行に捌き、右手で帛紗を握り込んで台を取り上げ、帛紗で先ず酸漿を内外と挟んで三度回して清め、それから羽を左上～右上、右下～左下と清める。

また帛紗を握り込んで台を元の所に置く。

帛紗を左手にのせ、天目を取り上げてその上にのせ、いつもの通り茶筅打ちをする。（音はしないように）

茶筅を元の所に置き、その手で茶巾を取りに行き、茶巾を持ち添えて両手で天目を持って湯を捨てる。（帛紗は左手天目下に敷いたまま）

茶巾でちょっと露を切り、茶巾を天目の中に入れる。

左手に敷いてある帛紗を外して左膝脇に置いておく。

茶巾を取って常の通り天目を一通り清めて、茶巾は天目の中に入れておき、天目を台の上にのせる。

帛紗を腰に納める。

天目内の茶巾を取って畳み直し、水指蓋上に戻す。

手の湿りをとる。

右手で茶杓を取り、左手で茶入を取り、右手で蓋をあけていつものところに置き、茶入から天目に茶を掬い入れ、入れ終えたら茶杓は天目の内側に預けておく。

茶入の口に茶が付いていたら、帛紗でさっと清め、帛紗はすぐに腰に戻す。

茶入の蓋をして、左手で茶入を元の所に戻す。

茶杓を取って天目のなかの茶をよくこなし、天目の内側手前で一つ打って、茶杓を茶入蓋に掛ける。

柄杓を取って左手で構え、右手で片手捌きして帛紗を取る。

※茶杓に茶が付いたままならば、右手で茶杓を持ったまま帛紗を取って軽く捌いて茶杓を清めて茶入に掛け、右手で柄杓を取って左手の帛紗と持ち替え、常のように右手の帛紗を整えてその帛紗で釜の蓋をあけ、常の通り帛紗を腰に納める。

柄杓で湯を汲み、先ず少し天目へ入れ、柄杓を釜に掛ける。

茶筅を取って茶を点て、茶筅を天目に入れたまま天目の左に掛けておく。

柄杓を取って湯を汲み、天目に入れ、柄杓を釜に戻し、再度点てる。
茶筅を元の所に戻す。

台天目を客付に置き、客付に振り向いて、台天目を客のほうへ向け、客に出す。

替え帛紗もその隣に出す。

客から服合の挨拶。

服合の挨拶後、柄杓を取って釜の蓋を閉め、蓋置を少し手前に出して柄杓を縦に蓋置に引いておく。

客から替え帛紗が戻ったら懐中し、柄杓を取って構え、蓋置を元の所に戻し、帛紗を取って片手捌きして釜の蓋を開けて蓋置に置き、帛紗を腰に納め、柄杓を釜に掛ける。

水指上の茶巾を取って釜蓋の上に置き、水指の蓋あけておく。

天目が戻ったら、客付に振り向き、台天目を居前に引き寄せ、**天目を取り上げて**点て具合を見、香を聞き、天目を台に戻し、**台ごと持ち上げてそのまま点前座正面に居直り、**居前に台天目を置く。

客から礼があるので、答えて一礼。

柄杓を取って釜から湯を汲み、天目へ入れ、柄杓は釜に掛け、天目を両手で取ってよく洗い、湯を建水に捨てて露を切り、台にのせる。

また柄杓を取って釜から湯を汲み、天目に入れ、水も汲んで天目に入れ、柄杓を釜に掛ける。

茶筅を取って天目に入れて右側に掛け、天目を両手で取り上げ、茶筅を一廻し回して、天目を左膝前に置く。

帛紗を取って行か草に捌き、前の通り天目台を清め、天目台を居前に置いて帛紗を腰に納める。

天目を取って左手にのせ、常の通り茶筅打ち（打つのは 1 回）をおこない、茶筅を元の場所に戻す。

両手で湯を建水に捨て、茶巾を取って露を切り、茶巾を天目のなかに入れて拭き、茶巾を

天目に入れたまま天目を台にのせる。

茶巾を取って折り直し、天目の中に入れる。

茶筅を取って左手を添えて正面を確認し、天目に入れて仕組む。

帛紗を取って捌き、茶杓を常の通り清め、天目にかける。
（※茶を入れたときに既に清めているならば、再度ここで清めなくてよい）

帛紗を腰に納める。

茶入を水指真ん前から少し右側にずらす。

台天目を取って茶入の左に、茶入と並べて置き合せる。

柄杓を取って常の通り持ち直し、釜へ水を指し、湯返しをし、柄杓の合を釜の縁に掛けて持ち直して左手に持たせ、右手で釜の蓋を閉める。

右手で蓋置を取り、手前に移し、柄杓を蓋置に点前座と真っ直ぐに引いて、建水を少し後ろに引いて柄杓の切留を建水の縁に掛けておく。

左手で水指の蓋を取り、右手で閉める。

客から茶入・仕覆・茶杓の所望を受ける

茶入を取って客付に振り向き、居前に置く。

台天目を水指真ん前に移す。

茶入を常の通り清めて客付きに出し、帛紗を袂に入れる。

茶杓を取って茶入の下座に出し、仕覆を取って茶入の勝手付に出す。

風炉前に戻って柄杓・蓋置を右手で持ち、左手で建水を持ち、逆回りにまわって水屋に下がる。

また出て台天目を持って下がる。

（運び水指ならまた出て水指を引く）

三器が戻ったら出て、茶入・茶杓・仕覆を取り、一礼して戻る。